米中の火種 4

台湾

武力衝突「最も危ない」時間帯

台湾は米中双方にとって譲れない地域。米大統領選へ向けてトランプ氏が焦る中、不測の事態も懸念される。

川上　高司（かわかみ　たかし）
（拓殖大学海外事情研究所所長）

中国の台頭へ警鐘を鳴らした『The Hundred-Year Marathon』（邦訳『China 2049 秘密裏に遂行される「世界覇権100年戦略」』）の著者である米政治学者マイケル・ピルズベリーは、中国は2049年までには米国を経済のみならず軍事力でも凌駕（りょうが）すると予言した。逆に言えば米国が中国を軍事的にたたきつぶせるのは「今」しかない。すなわち現在が最も米中の軍事衝突が起こりやすい「時間帯」だ。

台湾軍は中国軍の上陸を想定し演習を行った（2019年5月）　共同通信

どの地域を狙って米国が中国との間合いを詰めるのか。具体的には、香港、尖閣諸島、南シナ海、そして台湾の危機が考えられる。

ただ、前の3者については、有事に発展する可能性は低い。香港では中国が全国人民代表大会で採択した「香港国家安全法」に反対するデモが最高潮に達し、西側諸国が一斉に非難を行ったが、米トランプ政権は軍事的な威嚇も行使も一切行わなかった。尖閣では、中国が日本に対する挑発を継続したが、日中間に紛争が勃発しない限り米国には関係ない。

南シナ海では米中の軍艦がほぼ毎日のように射程内を行き来し、挑発行為も少なくない。しかし、南シナ海は双方にとり死活的に重要な地域ではないため「戦略的抑制」が働き、決定的な衝突とはならないだろう。

面目かけた中国の抵抗も

最も危険な状況にあるのは台湾である。台湾は米中双方にとり核心的利益に当たり、南シナ海などに比べ軍事衝突が起こる可能性は非常に高い。台湾統一は中国にとり悲願である。一方、米国にとって台湾は日本同様、地政戦略的に非常に重要である。台湾を中国に押さえられると中国海軍は太平洋へ自由に進出できるようになり米本土への攻撃が容易となり、米国にとっては悪夢である。ルソン海峡は、太平洋（フィリピン海）と南シナ海を結ぶ交通の要衝で、シーレーン（海上交通路）防衛は死活的となる。

台湾を巡る米中の緊張を、トランプ大統領は11月の大統領選挙に向けて高めてくるであろう。現在、対中政策を仕切っているピーター・ナバロ国家通商会議議長が著書『Crouching Tiger: What China's militarism means for the world』（邦訳『米中もし戦わば』）で述べているように、現時点では米軍が中国軍を凌駕している。「今」だったら米国は中国をたたけるし、中国はどこかの時点で妥協するという計算がトランプ氏には働くであろう。

中国は現時点で米国との武力衝突は極力回避しようとするであろうが、米国の挑発がエスカレートしたら、中国は面目にかけて米国に屈しない可能性は高い。

もし、台湾で米中が衝突すれば、日本は米国の同盟国であり米中紛争に巻き込まれる。

また、経済的被害も甚大となる。台湾有事には、台湾海峡は完全に封鎖される。日本経済にとって重要な、タンカーやコンテナ船が行き交うシーレーンのルソン海峡も通れなくなれば、日本経済はコロナウイルスによって打撃を受け回復もままならないところへとどめを刺されることになるだろう。